

## さといも

「さといも」は「さといも」、「いも類」、「野菜類」に適用のある農薬が使用できる。

「ずいき」は「さといも(葉柄)」「ずいき類」、「茎野菜類」、「野菜類」に適用のある農薬が使用できる。

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早熟 (石川早生)			種いも伏せ込み	▲	▲	——			■			
普通 (唐芋)		○	○	▲	▲	——			■			
普通 (えぐ)			○	▲	▲	——				■		
軟腐病			——	——	——			——	——	——		
黒斑病								——	——	——		
疫病								——	——	——		
ハスモンヨトウ								——	——	——		
アブラムシ								——	——	——		
ハダニ								——	——	——		

## 軟腐病

### 留意事項

- 1 収穫直前に雨が続くと被害が多い。
- 2 病原細菌は土中及び被害部について越冬する。

### 防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 連作を避ける。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。

## 黒斑病

### 防除方法

- 1 種いもは、無病地から採取する。
- 2 植付け時に無病いもを用いる。
- 3 種いもを下記のいずれかの薬剤で処理して、そのまま（ぬれたまま）植付ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【200～500倍 20～30分間種いも浸漬 植付前／1回】
- ・ [ベンレートT水和剤20](#) M3 1  
 【20倍 1分間種いも浸漬 植付前／1回】 または  
 【種いも重量の0.4～0.5% 種いも粉衣 植付前／1回】

## 疫病

### 留意事項

- 1 薬剤散布時は必ず展着剤を加用し、株元にしっかり掛かるように散布する。
- 2 高温多雨時に多発し、台風後などに一気に拡がる。
- 3 さといもは展着剤で薬害を起こしやすいのでアプローチBI、スカッシュ等のさといもに薬害が少ない薬剤を使用する。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分（マンゼブ）の総使用回数は、2回以内。

### 防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 連作を避ける。
- 3 被害株は早期に除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 無マルチ栽培の場合、土寄せの際なるべく葉柄に傷を付けないようにする。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) M3 【500倍 7日／2回】
  - ・ [ペンコゼブ水和剤](#) M3 【500倍 7日／2回】
  - ・ [ランマンフロアブル](#) 21 【2,000倍 前日／2回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) 21 【2,000倍 14日／3回】

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

- 1 年5～6回の発生で8～10月頃の被害が最も大きい。
- 2 老齢幼虫の防除は困難なので、若齢期防除に重点を置く。特に、発生の激しい地帯では一斉防除が効果的である。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を若齢幼虫を対象に散布する。
  - ・ [トレボン乳剤](#) 3A 【1,000倍 14日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3A 【2,000倍 7日／5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [プレバソフロアブル5](#) 28 【2,000倍 前日／3回】
- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000～2,000倍 7日／2回】
- ・ [アニキ乳剤](#) 6 【2,000倍 前日／3回】
- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2,000倍 7日／2回】
- ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1B 【1,000倍 7日／1回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4A 【4kg／10a 植溝土壌混和 植付時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3A 【3,000倍 7日／5回】
  - ・ [ウララDF](#) 29 【2,000倍 7日／2回】
  - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1B 【1,000～2,000倍 7日／1回】
  - ・ [アドマイヤー顆粒水和剤](#) 劇 4A 【10,000倍 14日／2回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【1,000倍 前日／2回】
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【1,000倍 3日／1回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【カンザワハダニ 2,000倍 7日／2回】
  - ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 21A 【1,000～1,500倍 21日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。